

## 「いじめの再発防止」に向けた主な取組の進捗状況について

令和2年2月

尼崎市教育委員会

今年度策定された「再発防止策」を踏まえ、以下の取組を実施しているところである。

### 1. いじめ等の感度を向上させるための指導や研修等の実施

- 4月当初から、学校管理職及び生徒指導主事に対し、危機管理マネジメントや自殺予防、いじめ対応策の持つ意味、SNS対応等の研修を行った。【小・中・高】
- 上記の研修については、研修受講者が中心となり校内伝達研修を実施した。依頼のあった学校には、指導主事による校内研修も実施した。【小・中・高】
- 市教委から生徒指導研究協議会等の機会に、いじめの感度を向上させるための指導や助言を実施した。【小・中・高】

### 2. 児童生徒に対するいじめ防止、自殺予防、情報モラルに関する教育

- 9月に匿名報告アプリ「STOPit」の導入に向けて「いじめの脱傍観者授業」を全ての中学校で実施した。(資料①)【中】
- 自殺予防教育プログラム「GRIP」をモデル校2校で実施した。来年度以降、実施希望校に順次拡大していく。(資料②)【中】
- 通信事業者等と連携した「情報モラル教育講座」(SNSの使い方等)を各校で実施した。【小・中・高】
- SNSの使い方等について、児童生徒自らが考える機会を設ける取組を推進した。【小・中・高】
- 通常の授業や道徳の時間、生徒指導の場においても、いじめを許さないことや、自らの命を大切にすること等の取組を推進した。【小・中・高】

### 3. 学校のいじめの早期かつ確実な発見、対応等に向けた体制強化

- 10月から、匿名報告アプリ「STOPit」を全ての中学校に導入した。また、「STOPit」専門の相談員を配属し、迅速に対応している。来年度は市立高等学校にも拡大する予定である。(資料①)【中】
- 各学期最低1回はいじめに関するアンケートを実施している。特に2学期以降は、アンケートを市内で統一し、いじめの早期発見に活かしている。(資料③)【小・中・高】
  - ※ アンケートについては実施したその日のうちに複数で確認し、管理職が点検するように徹底した。(資料④)【小・中・高】

※ アンケート等を通して、いじめの疑いがある児童生徒、気になる児童生徒に関しては、組織的に情報共有し、個人面談を実施するなど迅速な対応を徹底した。【小・中・高】

※ 不登校の児童生徒等にも家庭訪問等でアンケートを届け、できる限り実施できる環境整備に努め、心の内面の把握に努めることを徹底した。【小・中・高】

- いじめ防止生徒指導担当が、教師向けリーフレットや保護者向けリーフレットを作成し、いじめの早期発見や対応について啓発を行った。(別添①②)【小・中・高】
- 今年度はいじめの認知件数が大幅に増加した。
- 学校から要望があった場合や、気になる事案が発生した場合には、いじめ防止生徒指導担当指導主事を学校に派遣し、助言等を行い対応の改善に努めた。【小・中・高】

#### 4. 教育委員会・学校の危機管理能力向上

- 1学期、2学期にそれぞれ1回ずつ、いじめ防止担当指導主事が、全学校を訪問し、各校のいじめ防止等の取組状況等を確認し、指導及び助言を行った。【小・中・高】
- 命にかかわる重大事態が起きた場合の対応手順や留意事項を整理した手引きを、今年度中に策定し、全校に配付する。【小・中・高】
- 関係部署と協力し、自殺企図関連事案リスク評価シートの作成を進めている。(資料⑤)【小・中・高】

#### 5. 教員等へのフォロー体制の構築

- 10月から、小学校において「スクール・サポート・スタッフ」を導入し、教員の負担軽減のための人的支援体制の充実を図った。【小】

※ 今年度の取組について、尼崎市いじめ問題対策審議会において報告しており、今後はその評価・検証を踏まえ、来年度の取組がさらに実効性の伴ったものとなるよう改善していく。

## 匿名報告アプリ活用事業実施状況(報告)

## 1 概要

## (1)実施概要

- ①対象市立中学校17校に在籍する1～3年生の生徒約9,400人
- ②活用するアプリ『ストップイットジャパン株式会社匿名報告アプリ「STOPit」』
- ③実施時間
  - ・月曜日から金曜日の9:00～19:30(夏期学校閉鎖期間(8/11～17)、年末年始を除く)
  - ・上記時間帯以外に受けた報告等については、自動返信機能により翌実施日に対応するように伝えるとともに、緊急の状況に対応するため、「ひょうごっ子悩み相談センター」等の相談窓口を案内する。

## (2)対応件数等(1月31日現在)

登録数	186
-----	-----

対応件数	110
対応済み	78
対応中	32
対応回数	934

## (3)内容

内容	件数
テスト送信	49
学校関係	32
友達に関すること	17
自分に関すること	2
家族に関すること	4
その他	6
合計	110



(脱いじめ傍観者授業の様子)

## 学校における自殺予防教育プログラム「GRIP」の来年度以降の導入について

### 1 プログラム内容の概要

「GRIP」は立命館大学の川野教授らが考案した学校における自殺予防教育プログラムである。すでに指導案や資料が用意されており、学校が実情に応じてアレンジしながら、担任等教員自身が授業を実施することで、教員など大人にもつなぎながら学級や学校全体で援助希求ができる、支えることができることを目指したプログラムである。5回のプログラムで構成されている。資料等についてはホームページからダウンロードできる。

#### ① 「マインド・プロファイリング」

目的：自分の気持ちに気づくことで、つらいことやいやなことがあったときにも、自分でうまくコントロールできるようになる。

#### ② 「マインド・ポケット」

目的：嫌な気持ちになったときに自分の心の健康を回復する対処法を考え、状況に応じた対処を可能にする。一人でできる対処法もあれば、誰かと一緒に対処する方法もあることを知る。

#### ③ 「KINO (キノ)」

目的：感覚表現ゲーム「KINO」を通して、自分の感情を他者に伝えるには、様々な気持ちの変化や葛藤があることを知る。また、切り出し方を知る。

#### ④ 「シナリオコンテスト①」

目的：動画教材を用いて友だちの悩みに気づいたときの話の聞き方を習得する。相談できる身近な大人を見つけることができる。

#### ⑤ 「シナリオコンテスト②」

目的：友だちの自傷行為に気づいたときの対処方法を習得する。

### 2 今年度の実施状況

#### (1) 市内中学校 2 校で実施

園田東中学校では全学年で、武庫中学校では1年生で実施した。

### 3 来年度以降の実施について

#### (1) 希望調査の実施

来年度については、希望する学校において実施する。

#### (2) 実施に向けての校内研修等について

必要に応じて、川野教授やいじめ防止生徒指導担当等が助言を行う。

## いじめに関するアンケート調査

年 組 名前

このアンケートは、みなさんが楽しく学校生活を送れるようにするために実施します。日頃の生活を振り返って、問いに答えてください。

**いじめの定義** 「いじめ」とは、児童生徒に対して、一定の人間関係がある他の児童生徒が行う<sup>しんりてき</sup>心理的・<sup>ぶつりてきえいきょう</sup>物理的影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、その行為を受けた生徒が<sup>しんしん</sup>心身の<sup>くつう</sup>苦痛を感じているもの。

問1 あなたは、(今年4月から今日までの間) いじめられたことがありますか。

- ・ある ( ) ・ない ( )

※「ある」と答えた人は問2, 3, 4, 5, 6に答えてください。

※「ない」と答えた人は問4, 5, 6に答えてください。

問2 それはどのようないじめでしたか。されたことすべてに○をしてください。

- ① ( ) 冷やかしゃからかい、悪口や<sup>おどか</sup>脅し文句、嫌なことを言われる。
- ② ( ) 仲間はずれ、集団による無視をされる。
- ③ ( ) 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして<sup>たた</sup>叩かれたり、<sup>け</sup>蹴られたりする。
- ④ ( ) ひどくぶたれたり、<sup>たた</sup>叩かれたり、<sup>け</sup>蹴られたりする。
- ⑤ ( ) 金品をたかられる。
- ⑥ ( ) 金品を<sup>かく</sup>隠されたり、<sup>ぬす</sup>盗まれたり、<sup>こわ</sup>壊されたり、<sup>す</sup>捨てられたりする。
- ⑦ ( ) 嫌なことや<sup>は</sup>恥ずかしいこと、危険なことをさせられたり、されたりする。
- ⑧ ( ) パソコンや携帯電話・スマートフォンで、<sup>ひぼうちゅうしょう</sup>誹謗中傷や嫌なことをされる。
- ⑨その他 ( )



## (例) いじめに関するアンケート 点検表

学年・組	実施日	点検日	担任印	複数確認印	全体生指	教頭印	校長印
1年1組	5月30日	5月30日					
1年2組	5月29日	5月29日					
1年3組							
2年1組							
2年2組							
2年3組							
3年1組							
3年2組							
3年3組							
特別支援学級1							
特別支援学級2							
特別支援学級3							

**《備考》**

**校長、教頭、全体生指担当は、アンケート実施日に担任を含めた複数チェックが行われたかどうかの確認を行ってください。**

(例)

《いじめに関するアンケートからの事実確認用シート》

	確認日時	学年・組	被害児童生徒	加害児童生徒	見ていた児童生徒	発生日時	態様	いじめ 認知の 有無
1	5月31日	1年1組	尾崎 太郎	大庄 次郎	特になし	4月27日	ひどくぶつかられた。	○
2	5月31日	1年1組	園田 三郎	不明	不明	4月20日	文房具が壊されていた。	○
3								
4								
5								
6								
7								

## 18歳未満の自殺企図関連事案 リスク評価シート【案1】

記入者名( ) 関係( ) 記入年月日

本人情報	氏名	男・女	生年月日	歳	
	出席状況		成績		
	学校内での友人や部活関係(いじめ等も含む)				
状態	課題解決能力 <input type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 低い 具体的( )				
	<input type="checkbox"/> 不眠	<input type="checkbox"/> 食欲不振	<input type="checkbox"/> 抑うつ感	<input type="checkbox"/> 孤立感	<input type="checkbox"/> 追い詰められ感
	<input type="checkbox"/> 焦燥感	<input type="checkbox"/> 衝動性	<input type="checkbox"/> 混乱	<input type="checkbox"/> 不自然さ	<input type="checkbox"/> イライラ <input type="checkbox"/> 負担感
行動内容	具体的な行動 <input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 内容( )				
	自殺に関する発言(できるだけ本人の言葉で)				
	自殺の方法	<input type="checkbox"/> 考えていない <input type="checkbox"/> 考えている 内容( )			
	自殺の準備	<input type="checkbox"/> していない <input type="checkbox"/> 準備している 内容( )			
	物質使用	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 飲酒( ) 過量服薬( )			
家族	家族構成や家族内の関係性				
	家族の反応	<input type="checkbox"/> 協力的 <input type="checkbox"/> 非協力的 <input type="checkbox"/> 他罰的			
	家庭内のストレス体験(被虐待歴も含む)				
危険因子	喪失体験	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 関係・時期( )			
	自殺企図歴	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 時期・手段( )			
	自傷行為歴	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 時期・手段( )			
	精神科通院歴	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 病名( ) 通院先( )			
	精神科入院歴	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 入院先( ) 時期( )			
	身体疾患	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 病名( ) 通院先( )			
保護因子	SCの利用	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 時期・頻度( )			
	教育相談の利用	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 時期・頻度( )			
	相談できる大人	<input type="checkbox"/> いない	<input type="checkbox"/> 担任	<input type="checkbox"/> 養護教諭	<input type="checkbox"/> 部活顧問
支援	家族の協力	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり 内容( )			
	本人の支援希望	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			
	家族への支援	<input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 必要 内容( )			



TALKの原則で対応して下さい。

Tell: 言葉に出して心配していることを伝える

Ask: 「死にたい」気持ちについて、素直に尋ねる

Listen: 絶望的な気持ちを傾聴する

Keep Safe: 安全を確保する

自殺の危険度の評価と対応

危険度	兆候と自殺念慮	自殺の計画	対応
軽度	・精神状態/行動の不安定 ・自殺念慮はあっても一時的	ない	傾聴、危険因子の確認 問題の確認と整理、助言 継続
中等度	・持続的な自殺念慮がある ・自殺念慮の有無に関わらず 複数の危険因子が存在する (支援を受ける資質はある。)	具体的な計画 はない	傾聴、危険因子の確認 問題の確認と整理、助言 支援体制を整える 継続
高度	・持続的な自殺念慮がある ・自殺念慮の有無に関わらず 複数の危険因子が存在する ・支援を拒絶する	具体的な計画 がある	傾聴、危険因子の確認 問題の確認と整理、助言 支援体制を整える 継続 危機時の対応を想定し、準備をしておく
重度	・自殺の危機が差し迫っている	自殺が切迫し ている	安全の確保 自殺手段の除去 通院あるいは入院

(平成20年度厚生労働省科学研究費補助金こころの健康科学研究事業「自殺に傾いた人を支えるために—相談担当者のための指針—」2009より)